

【22】 マーフィーの法則

今から30年ほど前に「マーフィーの法則」というのが流行したことがありました。

アメリカから入ってきて翻訳本も何種か日本でも出版されたのですが、要は仕事や生活の上での失敗、ヘマ、思い違い、期待外れなどマイナス面の小さな出来事から、教訓とか人生訓めいたものを引っ張り出して、「法則」と称して笑い話のタネにするものです。

さて、法則は沢山あるのですが、それ一つでマーフィーの法則として、代表されるのが、

失敗する可能性のあることは失敗する。

If it can go wrong, it will.

というものです。

こんな深刻なだけでなく少々意地悪で単に笑えるのが多いのですが、代表例を挙げると

- ・バカと議論するな、傍目にはどっちがバカかわからない。
- ・専門家とは小さなミスの一つも犯さずに決定的な誤りをする人のこと。
- ・早めに行くと会は中止されていて、時間通りに行くとうんと待たされ、少しでも遅刻するともう入室禁止である。
- ・大切な書類ほどコピー機に置き忘れられる
- ・セロハンテープは、すぐはがれるものと、絶対はがれないものの2種類が製造されているらしい。

こういう笑い話は自分の経験でも作れますので、皆様試みられては如何でしょう。私の作った傑作と思っているものをいくつか紹介します。

- ・昼食に外でカレーライスを食べた日の自宅の夕食はカレーである。
- ・酔っぱらって帰る途中で買った本は、帰宅して2冊目であることがわかる。
- ・単身赴任先の休日、ノンビリと朝風呂に入っていると宅急便か書留が来る。
- ・会議の配布資料に抜け落ちがあると、その欠陥資料は偉い人に優先配布される。
- ・なかなか来ないバスにしぶれをきらしてタクシーを拾うと、乗り込むときにバスがやって来る。

要は人生を楽観的に生きるための便方でしょう。